

山正ニュース

株式会社 山 正		
本社・緑化部	岐阜市市橋4-5-15	Tel <058>271-4468
岐阜営業所	岐阜市市橋4-5-15	Tel <058>271-4466
可児営業所	可児市川合塚越345-1	Tel <0574>62-5228
富山営業所	富山県射水市大江207-1	Tel <0766>55-3882
飛騨営業所	高山国府町857-2	Tel <0577>72-4466

2013年12月号(通巻55号)

§1 農業に関する政策資源が大規模農家に集中される傾向に！

～TPP交渉をにらんだ動きが加速化、

期待したいバランスのとれた施策の展開～

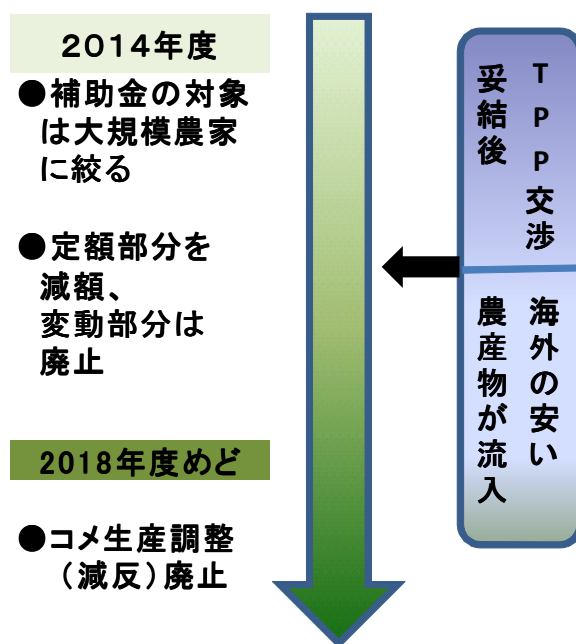
このところ農業に関する各種の政策が大規模農家に集中される傾向が強まってきている。なかでも、コメに関する政策が急展開される見込みとなっている。日本農業新聞や共同通信系の各地方紙が報じたところによれば(平成25年10月28日)、これまで農業政策のおおきなウエイトを占めてきた減反政策を廃止する方向での検討が進んでおり、その成り行きいかんによっては約50年ぶりに生産の枠組みを大きく変えるものとして注目される(原図;北日本新聞10月28日より改変・作図)。

現在検討が進んでいるコメ政策改革案のイメージは下図のとおりとなっている。環太平洋連携協定(TPP)交渉が妥結すれば安い農産物がわが国へ入ってくることが予想されることから、国内農業の中核を占めるコメ農家の競争力を高めることを狙いにした政策展開が図られる。

具体的には、

- ①生産調整(減反)は5年後の**2018年をめぐりに廃止**
- ②減反に参加するコメ農家への補助金を減額。
作付面積の10a当たり1万5000円の定額部分は、2014年度から**大規模農家**を対象を絞り、支給額も1万円、7500円、5000円のいずれかにする。
対象は北海道で作付面積10ha以上、都道府県で**4ha以上の農家**に限定する方向で調整
- ③販売価格が生産コストを下回った場合に支給する変動部分の補助金は、2014年度から廃止
- ④加工用や飼料用のコメを作る農家への補助金を手厚くする。
などがその内容となっている。

コメ政策改革案のイメージ



加えて、これらの政策に参加するか否かは農家の判断にゆだねられる可能性が強くなっている(朝日新聞;平成25年11月1日)。このように、コメをはじめとする農業生産の環境が激変する可能性が強まっているが、大規模経営農家とともに、わが国のコメ生産を支え、集落機能の維持や自然環境の保全に大きな役割を果たしている中小の農家や中山間地域の農家を含め、安心して農業生産に取り組めるようなバランスのとれた施策がどのように展開されていくのか、今後さらに注目していく必要があるものと思われる。



株式会社山正は、農薬・肥料・園芸ハウス・農業資材等の販売や、それに伴う農地・緑地・街路樹等のメンテナンス業務を通じ、地域農業や地域の環境緑地化への貢献を目指しています。



§ 2 読み物病害記⑥多犯性フザリウム菌の話 ～多くの農作物に被害を及ぼすやっかいな病原菌、 時には弱ったところにつく日和見菌的な働きも～

フザリウム菌には、すでに本ニュースで紹介したリゾクトニア菌（2012年9月号；通巻40号）およびピシウム菌（2012年11月号；通巻42号）とともに多くの農作物に被害を及ぼすやっかいな病原菌が含まれています。

農作物に被害を与えるフザリウム菌は下図の伝染環に示したとおり、作物が収穫された後は被害作物の残渣あるいは土壌中で硬膜胞子という耐久体を形成して生き残り、作物が再び作られるようになって環境が良くなれば発芽して作物に侵入・感染・発病します。これを第一次伝染といいます。第一次伝染で発病した病斑部には多数の「樽型」の小型分生胞子や「三日月型」の大型分生胞子などの特徴的な分生胞子が形成されこれらの分生胞子によって第二次伝染を繰り返します。

被害の様相は「萎凋」、「立枯れ (Damping off)」、「乾腐」に大別されます。萎凋や立枯れによる被害は、主として根部や地際部の傷口や気孔などの自然開口部から菌が侵入し、道管や篩管などの通導組織内で菌が増殖して養水分の通導を止めてしまうことによって起こります。シクラメンやトマトの萎凋病をはじめ、大豆の立枯病や多くの花き類の苗立枯病はこのタイプです。一方で、ラッキョウの乾腐病やチューリップ球根腐敗病などでは、生育期間中は萎凋症状を示し、収穫後は鱗茎や球根を乾腐させます。

フザリウム菌はその伝染環から明らかなように一旦発病すると土壌が汚染されて防除が困難になるので、発病の兆候を示した作物は速やかに圃場から搬出し圃場衛生に努めるとともに、発病してしまったら土壌消毒や接木苗の使用、植え付け前の球根消毒など、作物に応じた対応をとることが大切です。

なお、フザリウム菌は一般的には春先から秋にかけて長期間にわたって活動するが、夏季の高温時に病勢がより激しくなる特徴があります。また、体質が弱っている作物には病原性の比較的弱いとみられるフザリウム菌が認められることも多く、圃場衛生とともに、作物の生育を良好にしておくことも大切なことです。



§ 1 農業に関する政策資源が大規模農家に集中される傾向に！

～TPP交渉をにらんだ動きが加速化、

期待したいバランスのとれた施策の展開～（名畑技術顧問）・・・1ページ

§ 2 読み物病害記⑥多犯性フザリウム菌の話

～多くの農作物に被害を及ぼすやっかいな病原菌、

時には弱ったところにつく日和見菌的な働きも～（名畑技術顧問）・・・2ページ